



「競争」でなく「協力」を

楽しいゲームの落とし穴

~~~~~

「手を頭の上に置いて！先生が好きな果物を英語で言いますから、カードを取ってください。何枚取れるかがんばってみましょう。Are you ready? No.1. I like strawberries.」

子どもたちの大好きなカルタ取りゲームです。カードを取りたい児童は積極的にゲームに取り組みます。その点では、動機づけとしてこのようなゲームを用いることには意義があると言えそうです。ただし、英語の力だけで勝負がついてしまう活動であれば、たいていの場合、勝つ児童と負ける児童がいつも決まってしまう。

さらに悪いことに、頭の上に手を置いておくと、振り下ろした手が友達の手を叩いてしまったり、カードを取る際に友達の手を引っかけてしまったりすることもあります。痛い思いをした子や、あまりカードが取れない子は、早々にあきらめて参加しなくなったり、友達の手を叩くことをおもしろがったりする子まで出てきます。「俺が先に取った」「〇〇にぶたれた」と、グループの雰囲気も険悪に。班が7つも8つもあれば、先生の目は細部まで届きません。全体的には楽しそうに盛り上がっていますから、このような授業が一見成功しているように見えるのも怖いところです。

椅子取りゲームなども同様です。空いた椅子に何人もの子どもが突進するような活動は危険です。グループ対抗で、答えがわかった子どもがカードを取りに黒板にダッシュして、ぶつかり合うような活動も見られます。

~~~~~

子どもたちはゲームが好きです。ポイントを与えて競争を行うと、活動への集中力は確かに上がり、盛り上がりのある楽しい授業になっているようにも見えます。しかし、勝負が目的になると、とんでもない落とし穴に陥ってしまいます。

考えてみましょう

●よりよい外国語活動にするための55項目

●著者が目にした授業の実例など

●上記についての解説

6 活動を豊かにするポイント

子どもたちは「ちゃんと英語を聞こう、話そう」ではなく「勝つためにどうするか」「早く仕上げるにはどうするか」に集中してしまいます。これでは何の力を育てているのかわかりません。

勝敗やごほうびのためや、楽しいからだけではなく、活動自体を「やってみよう」と思えるような内容にする工夫が必要です。競争だけでなく協力させることや、聞き取ることができたり、伝えることができたりすることで「達成感」を与えるような活動ができれば、さらなる学習の動機づけとなるはずです。

クラスの規律がきちんとできていない場合、ゲームによって教室が無法地帯となることもあります。ルールを守ることができない状態では、効果も期待できません。何の目的でその活動を行うのか、その目的をちゃんと果たせる環境や条件が整っているのかをチェックする必要があります。

こうしてみませんか

左に挙げたような活動でも、「しっかり発話を聞いて、すばやく反応する」ことは確かに起こるわけですが、別の方法で同じ目的を達成することもできるはずです。カルタなら、「カードを取る」のではなく、「指先をそのカードの上にそっと置く」ルールにすることができでしょう。これなら誰も痛い思いをすることなく、カードの取り合いも起こりません。

あるいは、各自の手元に絵が描かれたワークシートを置かせて、先生の発話を聞いて指で指し、「Here.」（あつた）と言わせるような、ひとりで行う活動もできます。常にゲームや競争にするのではなく、友達と協力して進めるような「共同（協働）学習」の視点をぜひ持ってみてください。

〈アクティビティ例〉●協カリスニングゲーム (p.128)

関連ページ ⇒ p. 128、p. 210

👑 同じ目的でも、さまざまな方法があります。いつも競争・勝負だけを動機づけにするのはやめましょう。

👑 ペア、グループで協力、助け合いの起こる活動をしてみましょう。



●改善方法など具体的なアドバイス

●理解が深まる関連ページ

●このページで押さえておきたいポイント

授業をふりかえる 省察のためのチェックリスト



よりよい授業のために、

以下の項目を定期的にチェックして、授業をふりかえてみましょう。
十分でないところは何度も読み返し、理解を深めてください。

【(校内)研修での使い方】

本チェックリストを用いて、参加者が自身の取り組みや意識についてチェックすることで、現状における問題や課題をはっきりさせることができます。その上で研修に取り組んでみましょう。

序章 外国語活動で育てる力—目的と理念—

- 週1回で英語の力をつけようと思っていませんか。
- 全人教育として外国語活動を考えていますか。
- 態度・価値観を育てることを大切にしていますか。
- 早い完成をめざす必要はないことを理解していますか。

1章 「ことばの教育」であるために

- 子どもが安心して授業を受けられる教室になっていますか。
- 子どもが理解できるような英語を使っていますか。
- 日本語を上手に活用していますか。